

## 平成 20 年度 JAXA 学校宇宙連詩への取り組みの報告

### 実施概要

太文字以外の部分を、ご入力ください。記載例は削除ください。

なお、学年で取り組み内容が異なる場合は、取り組みを学年ごとに分けてご報告ください。

<b>学校名</b>	私立 慶應義塾女子高等学校	<b>校長名</b>	山本正身
<b>学校所在 地住所</b>	〒108 - 0073	東京都港区三田 2 - 1 7 - 2 3	
<b>連絡先</b>	:03 - 5427 - 1674		Fax:03 - 5427 - 1675
	e-mail:rxw05614@nifty.com		
<b>参加者</b>	3 学年 12 学級 600 名	<b>指導教 諭</b>	小林秀明
<b>参加目的</b>	<p>慶應義塾女子高等学校では、各学期に 1 回程度「宇宙授業」を行っています。2007 年 11 月に行われた第 8 回「宇宙授業」～詩から宇宙が生まれるとき～（講師 詩人覚和歌子氏）を発端に校内宇宙連詩の創作を始めました。その目的は次の通りです。</p> <p>2008 年 6 月に国際宇宙ステーション「きぼう」建設のために慶應義塾大学理工学部出身の星出彰彦宇宙飛行士がシャトルに搭乗します。そこで後輩として星出さんへ応援メッセージを送りたいと考え、詩人覚 和歌子氏の「宇宙授業」で学んだ連詩に気持ちを託してお贈りしたいと考えました。</p> <p>また、この校内宇宙連詩のタイトルである「道をつくる」には、宇宙における新たな道を星出さんに築いてもらいたいという気持ちのほかに、2008 年、慶應義塾が創立 150 年を迎え、私達、慶應義塾生も星出さん同様に新たな道を切り開くという強い信念も込められています。</p>		
<b>指導目標</b>	<p>目標 1：宇宙連詩を通じ、宇宙に対する興味関心を喚起させる。</p> <p>目標 2：全校生徒と教員が共通の目的に沿った連詩を紡いでいくことで学校全体の融和を図る。</p> <p>目標 3：連詩完成シンポジウム、および慶應義塾 150 年シンポジウムで完成した校内宇宙連詩を発表する機会を与える。</p>		
<b>具体的な取り組み内容</b>			
<b>実施段階 実施時期</b>	<b>取組内容</b>		
準備段階 2007 年	2007 年 11 月 30 日 本校第 8 回「宇宙授業」～詩から宇宙が生まれるとき～において、講師に詩人覚 和歌子氏をお迎えし、詩全般のお話と、詩の作り		

11月	方を演習とともに指導していただく。
<b>導入段階</b> 2007年 12月～ 2008年3 月	<b>指導目標 1～3への取り組み</b> 詩人 和歌子氏の授業をきっかけとして、JAXA 宇宙連詩（第2期）の公募に挑戦。 国語科の選択授業（国語表現）の中で連詩について扱い、その成果を各生徒が JAXA 第2期宇宙連詩（第14詩以降）に投稿。 で応募した詩を再編集して、ひとつの連詩「君と出会えた」を完成。詩の構成に関しては、詩人の新藤涼子氏の協力を仰いだ。（本校 HP 参照） 以降、全校生徒に JAXA 宇宙連詩への応募を呼びかける。数編が佳作に選ばれる。さらに本校生徒が第2期宇宙連詩の第23詩に選ばれる。 2008年3月9日 日本科学未来館 みらいCANホールで行われた JAXA 宇宙連詩完成披露シンポジウムにて本校生徒 菊池紫苑君らが第23詩を朗読。（本校 HP 参照）
<b>実施段階</b> 2008年2 月～	<b>指導目標 1～3への取り組み</b> 2008年が慶應義塾創立150年を迎えること、また、2008年に本塾理工学部出身の星出彰彦氏が国際宇宙ステーション「きぼう」建設のためのフライトを実施することなどから、応援メッセージを連詩に託すことを企画。 事前準備：冒頭第1詩を、本校に講演に来ていただいたことのある川泰宣氏に提供していただく。 第2詩を1年生のあるクラスで公募する。公募はメールで行い、作者の名前はわからない仕組み（裁き手は小林教諭）。1～2週間後、応募作品の中から1編を、そのクラス全員の投票により選考。選ばれた第2詩を受けて、そのクラスの担任が第3詩を創作する。なお、ルールは、基本的に JAXA の宇宙連詩と同じ。 の要領で、1年生から3年生、そして2008年度新入生へと、生徒～教員と交互に校内宇宙連詩が紡がれていった。
<b>実施段階</b> 2008年9 月～	<b>指導目標 1～3への取り組み</b> 夏休みを経て9月には第23詩まで紡がれ、慶應義塾女子高等学校校内宇宙連詩が完成する。 2008年10月13日 慶應義塾大学 日吉キャンパス協生館「藤原洋記念ホール」で行われた慶應義塾創立150年記念 JAXA 宇宙飛行士 星出彰彦先輩が語る「Design the Future 宇宙、そして未来へ」の講演会の最後に安西祐一郎塾長、および星出彰彦氏

	<p>の前で本校校内宇宙連詩を披露。</p> <p>披露に際しては，第1詩を提供して下さった的川泰宣氏からのビデオメッセージが同時上映された。</p> <p>校内宇宙連詩は，2008年度本校校誌「萌木」に掲載される。</p> <p>校内宇宙連詩は，現在，慶應義塾女子高等学校のHPより参照できる。</p>
<p><b>社会との繋がり</b></p>	
<p>本校校内宇宙連詩，および JAXA と本校との共同研究については，2008年11月21日（金）～24日（月）に全日空ゲートタワーホテル大阪で行われた，アジア生物学教育協議会第22回隔年会議（AABE22）で小林により発表された。</p> <p>2008年「国語教育」（東京法令出版）に本校での連詩創作について掲載。</p> <p>今回の校内宇宙連詩創作のきっかけとなった本校『宇宙授業』については，さまざまなメディアに掲載されている。詳しくは本校HP『宇宙授業』より閲覧できる。</p>	

## 平成 20 年度 JAXA 学校宇宙連詩への取り組みの報告 指導教諭からの報告

### 感動を紡いだ宇宙連詩

慶應義塾女子高等学校 教諭 小林秀明

本校と JAXA 宇宙連詩とのかかわりは、2006 年の 10 月にまでさかのぼります。それは「みんなで紡ごう 宇宙に流れる生命（いのち）のメッセージ」（丸の内北口オアゾ）と題して行われた第 1 期宇宙連詩を募集するシンポジウムに参加したことから始まります。そこでは、詩人大岡 信氏や宇宙飛行士毛利 衛氏らとともに本校生徒 2 名が詩の代読をおこないました。このときに代読を行った本校生徒は、そのとき 2 年生でした。その後、2008 年 3 月に日本科学未来館 みらい C A N ホールでおこなわれた「第 2 期宇宙連詩完成披露シンポジウム」では、創作途中の本校宇宙連詩の朗読を、やはり本校生徒 2 名がおこないましたが、このときの生徒の一人が 3 年生になった先の生徒でした。

学校の伝統や校風は、卒業生から新入生に受け継がれていきます。今回のシンポジウムでの本校生徒の朗読一つをとっても、まったく偶然に同じ生徒が第 1 期の宇宙連詩のスタートから、第 2 期の宇宙連詩のゴールまでを彼女自身の学校生活（もちろん、この生徒は JAXA の宇宙連詩や校内宇宙連詩にも投稿してきました）とともに紡いだのではないのでしょうか。この生徒は在校中に本校の伝統も受け継ぎ、さらに宇宙連詩の思い出をあわせ紡いで卒業していきました。

宇宙連詩は、あるとき人と人との繋がりを築きます。言い換えれば絆を深めます。本校では生徒と教員が交互に詠むという手法をとりました。世代を超えた作者の知らない者どうしが全 24 詩を完成させたわけで、本校はじまって以来の挑戦でもありました。感想文にもありますが「私の後の詩は、どんな詩なのだろう？」と生徒も教員もドキドキしたものです。このドキドキは間違いなく「感動」です。学校教育で生徒が感動することはあっても、同じ土俵で教員も感動することは、それほど多くはありません。本校では宇宙連詩を通して感動も紡ぐことができました。

写真：覚 和歌子氏による【第 8 回】宇宙授業「詩から宇宙がうまれるとき」の様子。



**平成 20 年度 JAXA 学校宇宙連詩への取り組みの報告**  
**参加者からの報告**

宇宙連詩作りに参加した方からの、宇宙連詩編纂への感想（宇宙連詩でしか得られない感想を中心に）を、5～10 件程度、1 件 100～200 文字程度で、ご紹介ください。宇宙連詩作りに参加して、特にプラス効果が認められた生徒さんからの感想は是非ご紹介ください。フリーフォーマットで結構です。

感想 1（参加生徒 2008 年度一年生）

『言葉』という人類の最大の遺産を通じて、宇宙との距離を縮められたように感じています。今はただただ、宇宙への親近感と、宇宙と学校の仲間と繋がりあえる喜びでいっぱいです。宇宙との距離を縮める要素になれていたら、いいな。

感想 2（参加生徒 2008 年度三年生）

一人一人の思いはそれぞれですが、今回の宇宙連詩では言葉を介して、それぞれの思いを一つにまとめることが出来ました。特に、次の順番の方の詩を読んだとき、私の言葉がその方の言葉にうまく織り込まれていてとても感動しました。貴重な体験をさせていただき、ありがとうございました！

感想 3（参加生徒 学年不明）

とても広く、手の届かない場所だと思っていた宇宙。しかし、宇宙連詩編纂を通して、改めて宇宙について考えることで、私たちも宇宙の一部だということに気付いた。とても貴重な体験になったと思う。

感想 4（参加教員）

宇宙連詩を作ることになって、普段は思うこともない、宇宙の中での自分の存在を実感することができました。宇宙が始まってからの歴史的なつながりや他の皆とのつながりに思いを寄せて深い感銘を受けました。貴重な機会を与えてくださり感謝しています。

感想 5（参加教員）

詩を書くという作業は中学の時以来でした。何も考えずに書いていた当時と比べると、今詩を書くのは自分の内面をのぞかれるようで恥ずかしい気がします。しかし過去を振り返る機会にもなりました。そしてみんなで紡いだ宇宙連詩が「きぼう」に保管されると聞き、今度は地球から「きぼう」を眺めたいと新たな望みが生まれました。

感想6（参加教員）

I want to say thanks for giving me the opportunity to write a poem. It was such a unique experience to me. I looked back to my school days and I read again Shuntaro Tanigawa and JP Sartre, who gave me the inspiration to write that little poem. Thank you again.

### JAXA アンケートへのご協力をお願い

下記の質問を参加された児童・生徒に行っていただき、結果を集約頂ければ、嬉しく存じます。口頭でのアンケートでも結構です。

**Q1 宇宙連詩に参加する「以前」に、「JAXA」や「きぼう」を知っていましたか？たとえば、「私は、JAXAの です」とか、「私は、『きぼう』に関係した仕事をしています」と言われたとき、ピンとききましたか？**

「はい」と答えた方 180名（200名中）  
本校は例外かもしれませんね。

**Q2 宇宙連詩に参加して、JAXA や「きぼう」が、身近に感じられるようになりましたか？**

「はい」と答えた方 177名（200名中）

**Q3 来年も、みんなで宇宙連詩を作りたいですか？**

「はい」と答えた方 150名（200名中）

**Q4 その理由は何ですか？（箇条書きで結構です。）**

- ・ 今度は選ばれるよになりたい（大部分）。